



みんなのスペース

◆あて先・問い合わせ
〒028-1392 (住所不要) 山田町役場総務課情報係(☎82-3111内線417)へどうぞ。

如月

如月とは、二月の月の事を言う。暦のめぐりは、早く新年が明けて、早一ヶ月が過ぎ、二月三日は節分。節分は、冬期が終りの節目と、節分に「鬼は外、福は内」と火でいった大豆をまく。これは、「鬼や疫病は、この豆の芽が出るまで、この世に出て来るな」とのたとえ事もあり、また、いり豆は保存が良いので「ケガス」(飢餓)に備えての方法だった様にも聞いていた。そして翌日は早くも立春です。もう既に春へと発つ所です。生動物には、辛い厳しい季節は、ま

まだまだ続くのに...

地球は春へと歩を進めている訳で、時々節句に乗り遅れない様に体調を整え、そろそろ野良仕事を人、カキ、ホタテ等養殖漁業の準備で忙しくなるのにこの地方では立春と言え、大寒が過ぎたばかり。雪は降り、水は凍る仕事をするには、

まだまだ厳しい季節です。やはりこの地方には、旧暦の方が合う様な気がします。ですが、世間一般の生活はサラリーマン化していて、一部月遅れの行事もあり、ほとんどの地域行事などに合わせるには、新暦でなければならぬでしょうね。最後になりましたが、大震災の復旧・復興が加速する事を祈りたいものです。

西館 隆(船越・80)

気ままに歩いた年はじめ

朝から、穏やかな日だったので、散歩にでかけた。川を眺めながら、道すがら、湯殿様に難をまぬがれた石塔が一つ残っていた。読むと、「志和稻荷」「早池峰山」と刻まれていた。あとの文字は読めなかった。先代の人たちは、参詣をする、神を敬い記念碑を建てるのが誇りと

聞いていた。ちなみに、震災のあと、町内を歩いてお堂やお地藏さんを見るにつけ、神は大きい力を持っていると信じたい。

気を配りながら歩くと、織笠駅の待合室の土台が残っていた。男衆たちの憩いの場で楽しそうだった。それから、子供の頃から、実のなる木のある家がこのましかった。いつか植えたい、思いかなって、駅周辺の土地に梅の木初春の冷たい風にけなげに咲く花、栗の花、柿の花と秋の実りを子どものようにたのしんだ思い出で、それが、震災で失ってしまったが、原風景は忘れられない...

震災まえを、糸をたぐりながら、とりとめのない、気ままに歩いた。

年のはじめのページ...

菊地 サカエ(織笠・78)

やまだ文芸広場

悪魔にも
仏にもなる海の波

息まいて

見るが気付かぬ的外れ

話聞くつもり酒が

喋りすぎ

芳賀 誠一(豊間根・72)

早春の陽を受けて咲く福寿草
福呼ぶ花に新年祝う

初夢の夢のあとさき忘れけり
知れたることよ老いたればこそ

内館 洋一(飯岡・?)

ひ孫との

電話を交す年となり

三が日嫁と孫にもお年玉
子守り役

ひ孫の足に追いつかず

佐藤 兼男(荒川・86)

ニッコリ道

イツモニコニコ

笑顔で、福幸道で、

ニッコリ道

佐藤 啓子(船越・?)

イラストコーナー



みかん(豊間根・12)



スーパー白米(大沢・14)



まっしろ(長崎・13)



フィリップ☆(長崎・17)

